

わが村は美しく

美幌町編

第十二回 優秀賞

合同会社 びほろ笑顔プロジェクト



美幌高校の生徒も参加して各種イベントで「美幌ブランド」をアピール。

お話をしてくれた人



合同会社 びほろ笑顔プロジェクト
大友 真佐美 さん

和・洋・中さまざまな料理の
味付けに使える、家庭でも簡
単にプロの味を再現できる
「美幌豚醬まるまんま」。



まちを元気にしたい思いを
商工会議所が後押し



美幌ブランド商品で
地域の人を笑顔にする。
農福商工連携が実現し、活動もパワーアップ！

北海道の東部・美幌町は、東は知床へ、西は北見市へ、南は阿寒湖や摩周湖、北は網走市へと、交通のハブ的役割を果たす町だ。

この町で、商品開発で美幌の魅力を発信しているのが、びほろ笑顔プロジェクトだ。代表社員の横山清美さんはこう話す。

「美幌は交通要衝の町だけでなく、町外に持ついくお土産がないことに気付き、美幌らしい商品を作ろうとしたことが活動のきっかけでした」。

二〇〇九年に、美幌商工会議所が、町内の飲食店、精肉卸、自治体、農家、若手経営者をはじめ、まちを元気にしたい思いの北海道美幌高等学校の生徒も加わり、美幌ブランド開発

検討委員会を発足。この中の有志が二〇二二年五月にびほろ笑顔プロジェクトを設立した。

最初に手掛けたのは魚醬ならぬ豚肉を使った醬油「美幌豚醬まるまんま」。「美幌にはもともと豚の生産農家があったことに注目。北海道立オホーツク圏地域食品加工技術センターの協力などもあり、水を加えずに豚肉本来のうまみが凝縮したオリジナル醬油の商品化に成功しました」と横山さん。

商品開発と製造部門を担当する大友真佐美さんは「私は、食品製造会社勤務を経て、加工技術センターに勤務していたので、食品開発のノウハウは多少ありました。まるまんまがテレビで取り上げられ、一時は供給が追いつかなくなったほど。でも二商品だけではすぐに忘れられると思い、次の商品のヒントを探りました。そこで注目し

第11回コンクール



参加しよう、広げよう、いいもの伝えよう
「わが村は美しく－北海道」運動

美幌町へは、JR石北本線 美幌駅下車。商品は駅に併設されている「物産館ぼっば屋」などで販売されている。来年1月22、23日には、札幌駅前通地下広場チ・カ・ホで開催されるオホーツクフェアに出店し、各種商品をPR販売の予定。ぜひ足を運んでみてはいかが。

お問い合わせ／びほろ笑顔プロジェクト ☎0152-73-0880



「辛味商品もあったらいい」という発想から誕生した「美幌トマトカラサン」。トマトをベースにトウガラシを加えた。



トマト生産を委託しているワークセンターびぼろの利用者たちに新しい仕事も提供。



高校で授業をする大友さん。商品開発のノウハウなど実践的な学びの機会を提供。



JR美幌駅には観光案内所や「物産館ぼっぼ屋」が併設。駅に降り立ったらまず、こちらからチェックを!



豚肉のうまみがぎゅっと詰まった「ミートソース」は、「美幌豚醬まるまんま」を隠し味に使用。



JR美幌駅に併設された「物産館ぼっぼ屋」の売り場。「美幌豚醬まるまんま」の他に「じゃがスティック」なども販売

たのが加熱用トマト。横山さんに「トマトの栽培をしたい」と直訴して実現しました」と話す。

加熱用トマト栽培で 農福商工連携が実現

トマト栽培は、町内の知的障がい者通所授産施設ワークセンターびぼろに委託して、原料を確保することができた。このトマトを原料に「美幌ケチャップ」を商品化。これをベースに、隠し味としてまるまんまを使ったミートソースも完成した。

さらにトマトを酢酸発酵させて作った「美幌とまポン酢」やトウガラシを加えた「美幌トマカラサン」など、この十年で豚醬を

味付けに活用した新製品を次々と世に送り出してきた。美幌町や商品のアピールのためにさまざまなイベントに参加し、全国的に認知度を高めている。

商品化が進む中、地元での食育活動にも取り組んだ。町内の旭小学校では、毎年、商品開発に携わる高校生と食育

たのが加熱用トマト。横山さんに「トマトの栽培をしたい」と直訴して実現しました」と話す。

の授業を実施している。授業を受けた子どもが、高校生になって小学生に授業を行うといった地域内交流が生まれているそうだ。

さらに町内のレンタルスペースで高齢者にランチを提供する一日限りのカフェの開催にも挑戦し、好感触を得ている。

こうした商品開発のノウハウをもとに、びぼろ笑顔プロジェクトには商品開発の依頼も増えてきた。JAびぼろからジャガイモの品種「サッシー」を使った商品を作ってほしいとの声があり、「じゃがスティック」を商品化。サッシーはフランスの品種で、栗のような甘さがあり、ホクホクした食感のジャガイモだ。

「美幌町や商工会議所の強力なバックアップがあったからこそ、ここまで実現できました」と横山さんは振り返る。

誕生した商品が核となり、イベントや食育にも広がりを見せる。「美幌ブランド」はこの先もずっと地域に笑顔をもたらし続けるに違いない。

①



「わが村は美しく北海道」運動は、北海道の農林水産業をより豊かにするために、2001年にスタートしました。2年に1度コンクール形式で優秀な活動を表彰しています。コンクールは1年目に優秀賞、奨励賞を表彰し、2年目に優秀賞から大賞を決定。地域の資源を掘り起こし、地域の活力とすると同時に活動を広くアピールし、豊かな北海道を未来へと受け継いでいくことを目的としています。

お問い合わせ／国土交通省 北海道開発局 農業水産部農業振興課 ☎ 011-709・2311 (内線5685)

